

1 膠原病はどこまでわかったか？(1) 膠原病の病因はどこまでわかったか？ ～オーバービュー～

The pathogenesis of connective tissue diseases :
what have we learned so far?

藤本 学

FUJIMOTO Manabu

筑波大学医学医療系皮膚科教授

Summary

膠原病は自己免疫機序に基づいた全身性の炎症性疾患とおおまかにはとらえられているが、その病因や病態はいまだに不明な点が多い。現在のところ、膠原病は単一の原因によって説明はできず、遺伝的要因や環境的要因などのさまざまな因子が発症にかかわる疾患群であると考えられている。遺伝的研究では、多数の疾患感受性遺伝子が同定されているが、最も強い関連をもつのは HLA である。微生物の関与の可能性は分子相同性仮説に始まり、アジュバント効果、バイスタンダー効果などさまざまな機序が提示されてきているが、近年、腸管などの細菌叢が個体の免疫に大きな影響を与えることも注目されている。

自己抗体

自己生体内の分子に対して産生される抗体で、自己免疫疾患において最も重要な免疫異常のひとつである。抗核抗体、抗細胞質抗体のほか、細胞表面や血中に存在する分子などに対する抗体の総称である。

抗核抗体

自己抗体のなかで、核の構成成分である核酸や蛋白に対するものをいう。膠原病では高率に陽性となり、主要なものだけでも 20 種類以上ある。疾患特異性の高いものから健常人でも検出され病的意義の乏しいものまである。

KEY WORDS

自己免疫／自己抗体／抗核抗体／遺伝的要因／微生物感染